

氏名 (法人にあっては名称)	大和重工株式会社
住所	広島市安佐北区可部1丁目21番23号
計画期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日
基準年度(*1)	令和元年度～令和3年度(平均)

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	☒ (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上(特定事業者) ☒ (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上(特定事業者) ☐ (3)特定事業者以外の事業者
------------	--

2 事業の概要

事業者の業種	鉄鉄鋳物製造業(鋳鉄管、可鍛鋳鉄を除く) (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号: 2251)
事業概要	天保2年(1831年)に創業し、創業以来“鋳物づくり”を通して社会に貢献しています。当社には2部門あり、産業機械関連機器部門は鋳造技術を軸に、鋳物から機械加工、組立までの一貫した生産体制を整えています。住宅関連機器部門は鋳物ホーローバスの製造を中心に、浴の文化を見つめ、豊かな生活提案をし続けています。

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度(平均値)	令和4～令和6年度(平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度(平均値)
温室効果ガス実排出量(*5)	4,476 t-CO ₂	4,342 t-CO ₂	4,753 t-CO ₂	4,995 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		3.0 %	-6.2 %	-11.6 %	%	%
温室効果ガスみなし排出量(*6)		4,342 t-CO ₂	4,753 t-CO ₂	4,995 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		3.0 %	-6.2 %	-11.6 %	%	%
実績に対する自己評価	鋳鉄鋳物製造業においては生産重量が基準年度に対し増加したため、温室効果ガス排出量が増加したと考えられる。					

*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。

*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。

*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。

*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。

*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。

*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の 実績 a	計画期間の 目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
鑄鉄鑄物製造業	0.866	0.84	0.857	0.766		
		3.0 %	1.0 %	11.5 %	%	%
金属工作機械用・金属加工機械用部品・付属品製造業（機械工具・金型を除く）	0.0281	0.0272	0.022	0.021		
		3.2 %	21.7 %	25.3 %	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び実績に対する自己評価	鑄鉄鑄物製造業においては生産重量が基準年度に対し増加したため、高周波誘導炉などの直接生産に関するエネルギー使用量は増加したが、コンプレッサーを含むユーティリティー部分での増減が見られなかった為、原単位が改善したと考えられる。					

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

特になし

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値(*8)の活用等）

特になし

4 その他の取組の実施状況

昼休憩時間の消灯、灯油購入形態の見直し、ブラインドの活用など、照明・空調に関する運用形態の見直しおよび清掃等による性能維持

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

*8 環境価値とは、オフセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	本社工場
事業所の所在地	広島市安佐北区可部一丁目21番23号
事業所の業種	銑鉄铸件製造業（铸铁管，可鍛铸铁を除く）
事業の概要	ねずみ铸铁・ダクトイル铸铁製品製造

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の 実績 a	計画期間の 目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	4,393 t-CO ₂	4,261 t-CO ₂	4,687 t-CO ₂	4,932 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		3.0 %	-6.7 %	-12.3 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		4,261 t-CO ₂	4,687 t-CO ₂	4,932 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		3.0 %	-6.7 %	-12.3 %	%	%
実績に対する 自己評価	基準年度に比べ生産重量が増加したため、温室効果ガス排出量が増加したと考えられる。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

特になし

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

特になし

2 その他の取組の実施状況

昼休憩時間の消灯、灯油購入形態の見直し、ブラインドの活用など、照明・空調に関する運用形態の見直しおよび清掃等による性能維持
